

岐阜市の一体的実施

平成24年4月2日事業開始

市とハローワークが連携して、市役所福祉事務所生活福祉課内のはたらき支援ルームにて職業紹介等を実施。

市

市役所庁舎内の提供

① 事業内容

- ・就職支援ナビゲーターより、市役所福祉事務所生活福祉課内のはたらき支援ルームで生活困窮者に対して求人情報の提供、職業相談や職業紹介を実施

② 協定・事業計画

- ・岐阜市長と岐阜労働局長の間で協定(*)を締結
- ・数値目標を盛り込んだ事業計画を岐阜市と岐阜労働局の間で策定

* 協定の実施等について相互に要望することができ、出された要望には誠実に対応する旨を規定。



国

職業紹介・職業相談の実施等



この協定の締結により、生活困窮者の早期就職に向けた就労支援の強化・充実が図られ、自立への支援の一層の強化と利便性向上を実施。

(1) 実施体制

岐阜市

- ・ 面接相談員、就労支援員、キャリアカウンセラー、ケースワーカーを配置

国(ハローワーク岐阜)

- ・ 就職支援ナビゲーター2名を配置
- ・ 求人情報提供用のパソコン1台を配置

(2) 事業目標と取組状況(7年度)

事業内容	事業目標(年度)	取組状況 (令和7年4月末時点)
生活困窮者に対して求人情報の提供、職業相談、職業紹介等の実施	利用者数 2,000名 支援対象者数 180名 就職者数 231名 (参考)前年度目標 ・利用者 2,000名 ・支援対象者数 180名 ・就職者 258名 ・就職率 36.7%	利用者数 142名 支援対象者数 19名 就職者数 16名 就職率 5.3% (参考)前年同月実績 ・利用者数 91名 ・支援対象者数 10名 ・就職者数 18名 ・就職率 10.0%

一体的実施事業（岐阜市）による就職成功例

男性：60代 ・希望職種：品だし・補充作業

① 求職者の課題

・10年以上勤めていた事業所だったが、仕事に腰を痛めてしまい、事業所と相談のうえ休んでいたが、その間店長と意思の疎通が上手くいかず人間関係が悪化し離職。人とコミュニケーションをとるのが苦手。

② 紹介の経過

・前職を離職したのがR5年6月、離職票を持参し雇用保険の失業給付の手続きを行ったのが同年10月、支給終了がR6年4月、生保開始が同年7月、就労支援プログラム開始が同年9月、そして紹介就職が同年11月と時系列でみると生保開始からは比較的早期に紹介就職に至った事例ではある。ただ前職を離職後、生活費が枯渇し痛めた腰と持病の気管支炎の治療をするために通院出来なかったため体調が悪化、結果就活もきちんと出来ず生保に至ってしまった。そのため生保開始後はきちんと医療機関を受診し薬も服用するようになったので、体調を取り戻すことが出来、徐々に就労意欲も向上していった。

③ 結果

・紹介就職 パート スーパーの食品売り場担当

④ 職業相談員の所感

・上記の流れの中で、失業給付を受給中のR5年10月からR6年4月までの6か月間には、当然HWで求職活動を行っているため、本来であればその6か月間、もしくはその後生保申請する7月までの3か月間、合計9か月間に就職することが出来ていれば生保に至っていない可能性があったことから、病院に行けず体調を崩したことも含め、今回の課題として挙げられる。ただ比較的早い段階で医療機関の受診や、就労支援など福祉の手が入ったことで、人間関係が苦手で自身では問題解決が難しかったが、自立へ向け一歩を踏み出すきっかけを作った事例となった。

⑤ 本人のコメント

・「経験職種なので自分も安心して働けそう。通院しながら体調に気を付け、長く続けられるように頑張ります。」と報告に来所。